

## 令和元年度第2回 大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 会議録

- 1 日 時 令和元年11月28日(木) 10時30分～12時10分
- 2 場 所 市役所第1分庁舎 第2会議室
- 3 出席者 委員5名(磯崎委員、上田委員、宮東委員、鈴木委員、渡辺委員)  
(1名欠席)
- 4 傍聴人 希望なし
- 5 次 第
  - 1 開会
  - 2 議題
    - (1) 次期大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画体系(案)について
  - 3 その他
    - (1) 次回開催日程 ほか
- 6 会議資料
  - 委員名簿
  - |      |                                |
|------|--------------------------------|
| 資料 1 | : 次期大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画体系(案) |
| 参考資料 | : 次期総合戦略に位置付ける予定の取り組み(一例)      |

### 【議 事】

---

- 座長 : 次第2 議題の(1) 次期大和市まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画体系(案)について、事務局に説明を求める。
- 事務局 : **【資料1、参考資料について説明】**
- 座長 : この会議においては、基本目標3や4に関わりが深い委員が多いと思うので、そこを中心に意見交換を進めていきたいと思う。まずは、基本目標3に関して、例えば、各分野の皆様からの視点で、市内の企業活動が活発に行われていると感じるか、市内産業をさらに活性化させていくためにはどのような取り組みが必要だと考えるかなど、様々なご意見をいただければと思う。
- 副座長 : 大和商工会議所では、中小企業のサポートに積極的に取り組んでいる。また、事業承継の課題にも対応しており、大和市は比較的うまく進んでいる方であるが、安心はできない。市内の企業には、出来る限り商工会議所の会員になってもらい、国の補助事業をうまく活用していくことや、資金面での援助など、しっかりとサポートをしていきたいと考えている。
- 委員 : ハローワーク大和では、マザーズコーナーというものを設置し、子育て中の方にスポットをあてた就職支援を行っている。このコーナーの利用者は、歩きや自転車で通えるような、自宅から近い会社を第一の条件とする方が多い。朝夕、子どもを保育所へ送り迎えすることや、保育所で子どもが発熱した時など、すぐに迎えに行ける場所を望むのだと思うが、なかなか希望に合う会社がなく、就労に結び付かない。そのため、「近くで働け

る」という考え方は重要だと思う。

事業所内保育所が増えていくことも良いと思う。ただ実際には、1つの事業者が単独で事業所内保育所を設置することはハードルが高い。このため事業者は、柔軟な働き方ができるようにして人材の確保に努めているようだ。

座長 : 聖セシリア女子短期大学でも、派遣で事務職員を雇用しているが、その人が子育て中の場合、「少し遅く出勤したい」とか、「保育所から呼ばれた時にはすぐに帰りたい」という強い希望がある。業務は分担ができるので、ご家庭第一で働いてほしいと伝えているところであるが、こうした状況をみていると、就労において、子育て中の母親特有の課題があるのだと感じる。

委員 : 前回の会議でも申し上げたが、大和市内には、とにかく空いている土地が少ない。既存の事業者は、市内で事業用地を探したいと考えている場合が多いので、適切な土地があった際には、行政にも柔軟な対応をお願いしたいと思う。

新たな企業の誘致や既存企業への支援については、大和市独自の取り組みを打ち出し、近隣市との差別化を図るべきだと思う。例えば、工業団地でいえば、近隣市で物理的に条件の良いものがたくさんあり、この劣後を上回るメリットを出すことが必要。

横浜銀行では、創業支援について、相模原市や東工大と連携し、起業家と知的財産のマッチング会などを行っている。大和市内には大学がないので、同じような取り組みは難しいのかもしれないが、起業家が集まってくるような仕組みがあってもいいのではないかなと思う。

事業承継については、大和市、商工会議所、税理士、金融でタッグを組んでプロジェクトとして進めていくことも必要ではないかなと感じる。

基本目標2の体系になるが、「ぴらっとでかけられるまち」ということでは、やはり大和駅周辺の商店街の魅力を高めていくことが必要だと感じる。そのためには、地元商店と協業でき、集客も見込めるような業態を駅周辺に呼び込むことが必要であると思う。

副座長 : かつては市内に大企業が多くあり、その社員たちで飲食店などにもぎわっていた。しかし、大和市は、事業を営むよりも、人が住むことに適したまちであるため、企業が出て行ってしまったのだと思う。

これだけ住みよいまちなのに、相模原市や海老名市などに挟まれて、大和市の認知度は低い。商工会議所の中でも、大和市の認知度を高めていくべきだという話は出ている。

座長 : 昔、南林間駅は、日産に通う社員であふれかえっていたイメージがある。大企業の撤退は、まちの活気という観点で大きな影響があるのだと思う。大和市に40年住んでいるが、厚木基地の騒音のこと以外に、嫌なところはほぼない。40年前は、周辺が原生林ばかりだったが、今は住宅ばかりである。これはやはり、副座長の言うように、住みやすいまちということの現れなのだと思う。

- 委員 : 事業承継について、商工会議所や金融機関の尽力により、県内での取り組みは進んできているところである。こうした中、県の統計によると、事業者の約3割は、後継者が課題であると考えているようであり、後継者となる人を育てることが非常に重要であると言える。今回、国の第2期総合戦略においても、「人材を育て活かす」という新たな視点が追加されており、大和市の次期総合戦略においても、後継者となるような産業人材を育てるという視点を追加してもいいのではないかと思う。
- 委員 : 大和市では、若年層向けにどのような就労支援を行っているか、また、その取り組みの実感はどうか。
- 事務局 : 若年層向けには、一般的な就職セミナーのほか、仕事に役立つワード、エクセルの活用方法や就職面接の対応方法などの集中講座も実施している。ただ、大盛況という状況ではないと認識しており、この会議を機に、ハローワークとの協力関係を強めながら取り組むことができればいいと考えていた。
- 委員 : 今、大和市では、「ハローワーク活用術」というセミナーを3か月に1回、開催しており、当日はハローワークからも人を派遣しているが、参加者は少ないという状況でありもったいないと思う。また、この10月に大和市が設置した大人のひきこもり相談窓口では、相談内容によって、対応部署への橋渡しをしているのだと思うが、中には就労支援への橋渡しが必要な方もいると思うので、どんどんハローワークを活用していただきたい。また、私たちも積極的に取り組んでいきたいと思う。
- 座長 : ひきこもりへの対応は、信頼関係を作るところから始まるので、解決することが大変難しい。家族の前にすら出てこないのに、外部の人が訪ねて行き、セミナーを紹介しても、おそらく拒否されるだけである。外に出てくるまでには、精神的なカウンセリングなどの支援が必要だと思うが、その中で、本人に就労の希望がある場合、上手に橋渡しできるような環境があれば良いと感じる。  
聖セシリア女子短期大学は、神奈川県職業訓練校として手上げをされており、保育関係の就業を志す方を受け入れている。30代の方が多く、家庭を持っている場合には、学校生活や実習等で苦勞しているケースが見受けられる。こうした点は、就労に向けても障壁になっているように感じる。
- 副座長 : 大和市はさがみロボット産業特区に加盟しているが、市の取り組みはあまり活発でないように感じる。もう少し充実しても良いと思う。
- 事務局 : ロボット特区に関連した取り組みとして、先ほど話のあった新たな企業の立地や、既存企業の設備投資への費用を支援する際、ロボット関連の企業の場合には、より良い条件で支援を受けられるようになっている。ロボット産業特区の取り組みに関しては、大和市から、すぐに目に見える形で成果が出てきにくいという部分があるが、行政としても、工夫しながら取り組みを進めているところである。  
基本目標3の個別目標1の部分は、様々な状況が複雑に絡んでおり、すぐ

に効果が現れる処方箋がないため、この総合戦略の中では一番悩ましい部分である。いろいろなご意見をいただき、その中からヒントを得ながら、少しずつでも取り組みを前進させていくことができればと考えている。

副座長 : 商工会議所としては、中心市街地は大和駅ということで位置付けており、とにかく大和駅前が発展しなくてはならないと考えている。例えば、大和駅周辺の再開発が新たに進めば、魅力も増すのではないかと思う。

委員 : この会議の趣旨とは異なるのかもしれないが、駅周辺の整備を進めたいということであれば、電鉄会社を、このような会議に参加させることが重要だと思う。2027年に瀬谷区で花万博が開催されることになっており、地元の方々が準備委員会などを立ち上げているが、相鉄はそのすべてに参画している。まずはこうした会議の場に参画してもらい、大和に目を向けてもらうことが必要なのだと思う。

事務局 : この計画は、市施策の横断的な話として、人口減少への対策を掲げていくものである。具体的なまちの整備については、街づくり計画部が所管しており、駅周辺についても、日頃から、電鉄会社と連絡調整を行っている。このため、この会議の場で、駅周辺の整備について踏み込んで話をすることは難しいこと、ご理解いただきたい。

委員 : ワーク・ライフ・バランスなどを進める企業の表彰を行っているとのことだが、応募してくる企業は、既にワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいることになる。本当に必要なのは、この表彰制度を使って、新たに取り組むを行う企業を増やすことであると思うが、どのように意識啓発につなげていくのかが難しい点であると思う。

事業所内保育所については、ある程度の従業員数を抱える事業所でなくては整備できないと思う。そう考えると、大和市内では、事業所内保育所よりも通常の民間保育所の方が、よりニーズが高いように感じる。

副座長 : いずれにしろ、近くで働けるまちというのは、子育て家庭にとってはとても重要だと思う。

座長 : 続いて、基本目標4に関連して、例えば、大和市は今後、どのような魅力の向上に取り組んでいくことが必要かなどの視点でご意見をいただきたいと思う。

事務局 : まちの魅力を高める方法は様々あると思うが、出来ればハード整備ではなく、ソフト面でのご意見をいただけると幸いである。

委員 : 行政側は、情報を発信しているつもりでも、実際には、住民などに届いていないということがよくある。今回、個別目標の文言を「発信する」から「届ける」に変更しているのはとても良いと思う。情報発信力を高めていくためには、専門的な人材を活用することも良いのではないかと思う。最近、情報発信に長けている自治体では、広告に関して専門的な知識を持つ人材を雇用しているケースが増えており、近隣の自治体においても事例がある。また、その人材は、あえて市外の人を選んでいる。これにより、地域では当たり前だと思っていたことが、実は、特色であると気づくケースがあり、魅力の再発見にもつながる。

- 副座長 : イベントを実施すると、近隣住民から、音や煙等に関して苦情が寄せられることがあり、実行委員会ではいつも頭を悩ませている。ただ、こうしたイベントは魅力を高めるために必要だと思うので、どんどんやってほしいと思う。
- また、おいしいものが食べられることや、きれいなものが見られることも、まちの魅力を高めるものだと思う。おいしいものについては、B級グルメも大切だが、A級グルメも増えればいいと感じている。そして、多くの人がおいしいものを食べに来るのであれば、きれいなまちにしておかなくてはならないと思う。
- 座長 : 藤沢市内の農協では、わいわい市というものを実施している。新鮮な野菜を安く買えるので、いつ行っても多くの人で賑わっており、魅力があれば人は自然と集まるのだと感じる。そうした場所が大和にもないかと探してみたが、同じようなものは見つからなかった。
- 事務局 : 大和市でも、毎週日曜日に朝霧市を実施している。しかし、市内で営まれている農業は、藤沢市と比べると小規模なものが多く、わいわい市のように、大規模に販売会を開催できるような状況にはない。
- 座長 : これからの時代、1つの自治体でなんでも完結させようとするのは難しくなると思う。県央地域には、小規模な自治体が集まっているので、広域的な視点で、他自治体と連携していくことが大切なことになってくるのではないかと感じる。まちの魅力という視点で考えると、他市や電鉄と協力し、例えば、江ノ島鎌倉フリーパスだとか、大山丹沢フリーパスなどのように、県央の観光地を巡るような企画があってもいいのではないかと感じる。
- 副座長 : 大和市出身の有名人は、案外たくさんいる。また、海外に渡って料理の修行をしてきた人などもたくさんいる。こうした人達に協力していただき、大和市をもっと盛り上げられないかと思う。
- 委員 : 現行の総合戦略では、新たに開催するイベントの数を KPI に掲げているが、今後もイベントを増やしていくのか。
- 事務局 : 地方創生を推進する中では、大和市に住んでもらう人を増やすことが第一の目標となるが、その前段には、交流人口と言われる、大和市に興味を持ち訪れてくれる人や、関係人口と言われる、市のイベント等の企画にまで携わってくれる人などの捉え方がある。イベントは、交流人口や関係人口のとっかかりになる取り組みであることから、大和市としても、イベントをどんどん活用していくという考えがある。
- 委員 : イベントが増えると、事務局として携わる人の苦勞はどんどん増えていき、どこかで限界がきてしまうような気がする。イベントの数を増やすのではなく、核になるようなイベントは継続しつつも、広告に関して専門的な知識を持つ外部の人材を雇用し、普段の暮らしの中の魅力を見つけて、情報発信していく方が良いのではないかと思う。
- 座長 : 意見も出尽くしたようなので、本日の会議は終了とさせていただきます。

---

以 上